

第22回

特別企画 公募ガイド×電撃大賞

おもしろいこと、あなたから。

電撃大賞

常に新しい才能を求めて変化を続けてきた電撃大賞。

応募数は他の文学賞を圧倒し、受賞作は必ずヒットする。

この強大で魅力的な賞に立ち向かうには、どんな作品で挑めばいいのか？



第21回電撃小説大賞《大賞》受賞作 電撃文庫
『ひとつつ海のバラスアテナ』著／鳩見すた イラスト／とろっち



第21回電撃小説大賞《大賞》受賞作 メディアワークス文庫
『φの方石 一白幽堂魔石奇譚一』著／新田周右 イラスト／雪広うたこ

国内最大規模の小説新人賞！

電撃小説大賞

オリジナルの長編および短編小説を募集。
ジャンル問わず。大賞受賞者には賞金
300万円が贈られる。詳細は本誌P.78を。

第21回データ

応募作品数5,055作品

(長編3,524作品、短編1,531作品)

大賞：『ひとつつ海のバラスアテナ』鳩見すた

大賞：『φの方石 一白幽堂魔石奇譚一』新田周右

イラストレーターの登竜門！

電撃イラスト大賞

未発表のオリジナル作品を募集。大賞受
賞者には賞金300万円が贈られる。詳細
は本誌P.88を。

第21回データ

応募作品数753作品

金賞：加藤いつわ

金賞：岡谷

連載とコミックス化を確約！

電撃コミック大賞

オリジナルコミック作品、コミカライズ
作品、コミック原作作品を募集。大賞受
賞者には賞金300万円が贈られる。詳細
は本誌P.88を参照。

第21回データ

応募作品数423作品

金賞：『さよならオルタ』仲谷鳩

金賞：『裏世界コミュニケーション』春場ねぎ

取材：山本竜也 撮影：棚橋亮

POINT 3

最終選考まで残った作品には担当者がつく

最終選考に残ると、受賞する、しないにかかわらず必ず担当編集がつき、タッグを組んで改稿や新作に挑む。プロの編集者のアドバイスを活かして作品の完成度を高められる。

POINT 4

未受賞からデビューを勝ち取った作家が大活躍中

「残念ながら未受賞」となっても、編集者の目に留まればデビューのチャンスあり。『ビブリア古書堂の事件手帖』の三上延など、こうした経路でデビューした人気作家も多い。

POINT 1

1次選考の通過者は、みんな必ず選評がもらえる

1次選考を通過すると、電撃文庫&メディアワークス文庫の編集者による選評がもらえる。1次～2次選考通過者には編集者2名、3次選考通過者には編集者5名の選評が。

POINT 2

受賞者は「必ず」デビューできる

受賞作は、電撃文庫、メディアワークス文庫などから必ず出版される。対象となる賞も、大賞、金賞、銀賞、メディアワークス文庫賞、電撃文庫MAGAZINE賞など、豊富で多彩。

電撃小説大賞

4つのポイント

電撃小説大賞の魅力は数あるが、これぞという4つをピックアップ。自分は電撃大賞向きではないと思っても、チャレンジしてみる価値は十分にある！

電

「電撃小説大賞」への昨年度（第21回）の応募総数は5055作品。歴代の受賞作品を含めた出身作家たちのヒット作品数は、数ある文芸公募の中でも群を抜いている。いまや、世界的に見てもこれほど盛り上がったという。賞は少ないと言えるだろう。ミリオンヒットを生み出す作家を次々と発掘するその秘密は、どこにあるのか？

「電撃大賞で何よりも優先されるのは、『面白さ』です。編集部で選考するとき、小説として優れているとか、この賞の傾向に合っているとか、そんなことは一切考えない。『読んでみて面白いが』、『みんながどう楽しんでくれるか』、それだけをいち読者になりきって考えます。だからこそ、この賞から巣立っていく作品のジャンルは多彩なんです。『電撃大賞だからこういう作品』ではなくて、ここから出していく作品がそれぞれ『顔』になってほしい（編集部）

文芸公募というところ、どうしてもハイドルの高いものとらえがち。『まだ他人に読んでもらえるレベルじゃない』『自分だけの世界だから他人に理解してもらえないわけがない』

何より優先されるのは「面白さ」 それこそが電撃小説大賞の看板

そんな思いで、応募を躊躇してしまふ。アマチュア作家は数多い。そんな原石たちを促し、『面白さ』だけを焦点にして磨き上げる。それがこの賞の強み。

「編集部での選考は、編集者たちの好みや個性のぶつかり合いです。ある者には平凡な作品に見えても、ある者にはダイヤモンドに見えていることがある。だからこそ、たとえばその回では選に漏れても、編集者が声をかけて『今回落としたあいつらを見返してやろうぜ！』と、共に作品づくりをすることも。そうした中から生まれたヒット作品もたくさんあります。」

だからこそ、まずは躊躇することなく、応募してほしい。文章のレベルが低くても、必ず編集者が『面白さ』を汲み取るし、独りよがりだと思っている世界でも、もしかしたらばっちりハマる共感者がいるかもしれない。応募規定さえ守っていたければ、タブーは何もありません。複数の作品応募も大歓迎です！

「この賞は正面から向き合ってくれ」という応募者の声も大きい文芸公募である。自分の作品の面白さを信じて、まずはぶつかってみてはいかがだろうか。



三木一馬

株式会社KADOKAWA
アスキー・メディアワークス
ブランドカンパニー
電撃文庫編集部 編集長
電撃文庫MAGAZINE編集部 編集長
電撃小説大賞 最終選考委員

／ 選考委員に聞きました ／

どんな作品がほしいですか？

電

撃小説大賞の選考は、絶対に「減点法」では行いません。

つまり、「ここがダメ」を探すことはしないということ。それよりも、「ここが面白い」というポイントを見つけて、フラットな状態からどんな評価を上げていくというやり方です。だからこそ、毎回、5000本以上の応募原稿のすべてを「頭から終わりまで」精読します。

「面白いところ」を積み上げていく方式だから、どんなに文章が研ぎすまされていて、完成度が高くて、こちらの琴線に触れる「引っかけり」がなければ評価はフラットなままなんです。いわゆるゼロ評価ということになってしまう。では、どんなことが「引っかけり」といえるか……それは、作者が「特にこだわっている部分」。個性、と言いつつ、言い換えてもいいかもしれません。「私はこれを書きたくて仕方なかったんだ!」と文字が訴えかけてくる作品。「変なヤツだと思われても、自分はこれが好きなんだ!」と主張する作品。

自らの「こだわり」を見せたいという個性に、選考者は反応します。それは、選考側の嗜好性にまったく反する場合でも。だから、自分の「書きたいこと」や「好み」

フエティッシュ」を表現することに手を抜いていない作品を読みたい。

選考の段階では、メディアミックスのことなどは考えていません。何よりもまず、「面白い」こと。そして、「こだわりに手を抜いていない」と。小説としての完成度よりも、この二つのポイントが高い、熱い作品をお待ちしています。

電撃文庫編集部では「ライトノベル」という、小説のカテゴリを採用していません。なので、「自分の作品はラノベっぽくないから……」という考えは捨ててください。この賞は「作風」を選びません。「電撃文庫」「メディアワークス文庫」、単行本と、受け皿となるレベルはたくさんある。受賞作は、作品のテイストに合致したレベルからの出版をお約束します。

「こだわり」は何でも良いんです。ドラゴンが大好きならその気持ちを、刑事モノが得意ならその強みを「こだわり」として読みたい。可愛い女の子とイチャイチャする小説を書く! という「こだわり」だって大歓迎です。

私たち編集部の仕事は、「他人に読んでもらいたい」という書き手の願望を、最大限にお手伝いすることだと思っています。この賞はその仕事をさせていただくための「出会い」の場でもある。多くの「願望」をお待ちしています。

電撃小説大賞に挑め!

公募ガイドが分析する「創作のポイント」

過去にない何か

「どこかで読んだことのある」を避けるのは、文芸公募では必須。どうしても設定などが過去の作品と似てしまう場合は、奥行きや文化を感じさせる表現や設定を加えることで色味を変え、差別化を図りましょう。

キャラクターの光と陰

魅力あるキャラクターは、作品に読者を惹き付ける上で重要なファクト。ただし、長所ばかりを並べ立てた画一的なキャラクターより、長短を併せ持った個性的なキャラクターの方が読者の印象に鮮やかに残ります。

汎用性より個性を

多くの人に楽しんでもらえる＝汎用性のあるストーリーは、実は文章表現としてはハードルの高いもの。公募への応募ではそれよりも、まずは自分の書きたい物語＝個性を優先してストーリー作りをしましょう。

第21回
電撃小説
大賞

鳩見すた

Hatomi Suta

初詣で思い出した 「小説家志望」の自分

電撃小説大賞に応募した理由は、調べてみて「なんとも、懐の深い賞だなあ」と思ったからです。これまでの受賞作品を見ても、あらゆるジャンルの小説が受賞していて、本当にカテゴリーエラーがない。ここなら、なんの色眼鏡も持たず、しっかりと受け止めてもらえると思った。受賞させていただいたのは2度目の応募作品です。一昨年、生まれて初めて書いた長編小説で、生まれて初めて応募した小説公募も、電撃大賞でした。そのときは、残念ながら選外でした。応募するときに、過去の受賞作品を含め、100冊近く電撃文庫の本を読んでから書き始め

たのを覚えています。

幼い頃から本が好きで、「小説を書いてみたい」という思いも心の奥底には秘めていたんですが、思いだけのまま、30代も半ば過ぎまで来てしまいました。

小説を書くきっかけになったのは、一昨年の元旦の初詣です。一緒に行った妻が、幼い頃からの夢

をかなえるために転職を考えていて、その祈願に行ったんですね。そのとき、妻から聞かれたんです。「あなたは小さい頃、何になりたかったの？」って。そのとき思い出したんですよ。「僕は、小説家になりたいかったんだ！」って。それで、「書いてみよう」って思った。

とりあえず3年、がむしゃらにやってみようって決意しました。それでダメならあきらめようって。それから、平日の帰宅後と、土日の休みは全日、執筆に当てました。長編、中編、短編といろんなものを書いていくつかの賞に応募しました。

そんな「がむしゃらに書く日々」を支えてくれたのは、手書きにメールにアプリと、いろんなツールを使った「メモ」。何かを思い浮かべたらすぐに記録した「メモ」が、作品のすべての根本だったと言ってもいいくらいです。それから、読んでくれる相手がすぐそばにいたことも大き



かったですね。僕の場合は妻でした。書きはじめの作家の卵には、読んで、客観的に意見を言ってくれる人間の存在は不可欠。「土下座してでも誰かに読んでもらう」ぐらいの気持ちには持っていたほうがいいと思います。

電撃の最終選考に残って、担当さんとやり取りする日々は、本当に楽しかった。「ここまでやるか！」というぐらいの綿密な打ち合わせが、毎回、楽しみで仕方なかったですね。大賞受賞は、そんな打ち合わせのときにサプライズで聞かれました。

「おめでとう。大賞だよ」っていきなり。ただ、ビックリするばかりでしたけど、そのときの担当さんの笑顔は、忘れられないですね。

はとみすた ●神奈川県在住。書いた文章で誰かが笑ってくれることに何よりの幸せを感じる。好きなものは犬と日記とカレー味。ライフワークは八重山諸島の探検。

『ひとつ海のバラスアテナ』 選評の一部を紹介！

佐藤竜雄(アニメーション演出家)

電撃で海洋ものは珍しいのでは。しかも描写的で臨場感に溢れています。ヒロインの少女が「明るいひきこもり」で、生存のための術は知っているけれど、生きることへの意義に迷っている。そんな彼女がキーちゃんを食べて生き延びたから死ねない、と必死に踏みとどまるところは泣けた。

第21回電撃小説大賞《大賞》受賞作
電撃文庫
『ひとつ海のバラスアテナ』
著／鳩見すた イラスト／とろっち
2月10日発売

透き通る蒼い海と、紺碧の空。世界の全てを二つの青が覆う時代、『アフター』。14歳の少女アキは、両親の形見・愛船バラス号で大海を渡り荷物を届ける『メッセンジャー』として暮らしていた。ある日、アキは航行中に恐るべき『白い嵐』に遭遇し、船を失ってしまう――。



第21回
電撃小説
大賞

新田周右

Nitita Shusuke

「おっかなびっくりな興味」 が応募の理由

応募は小説趣味の延長でした。自分の書いた作品がたくさん応募作の中に紛れたとき、いったいどのような評価を受けるのか、おっかなびっくりな興味に従って応募させていただきました、というのが正直なところですよ。

そんな応募動機だからこそ、応募先には難関たる電撃大賞を選ばせていただきました。初応募は第20回。それ以外に今回の受賞まで、応募経験はありません。第20回電撃大賞に

落選し、そして今回、受賞させていただくに至ったわけですから、小説公募への応募回数は合計で2回。それがすべてです。

電撃を選んだ一番の理由は、なん

といっても門戸の広さでしょうか。どのようなジャンルの作品であっても、あるいは分類が困難な作品でさえも、どし

りと受け入れてくださるという点では、広く開かれた賞であると思います。同賞からメディアワークス文庫出版作品が生まれるようになってから、その傾向はさらに強まったのではないのでしょうか。

小説を書き始めたのは、21歳になるかならないか、といった時期だったと記憶しています。とにかく何か面白いことを探していた当時、元手のかからない趣味として始めてみました。以来、作品を執筆するに際して堅持するよう心掛けているスタンスは、恥ずかしながら言えば、「好きなものを、好きなように書いてたええんや。自分の思う面白さに誠実でありさえすれば」ということ。いつもそう考えてキーボードへ指を走らせています。

平日はほとんど時間をとることができず、週末に執筆することが多いです。土日で合計10時間といったところでしょうか。

作品をつくるときのヒントは、旅行（主に国内）での経験から得られることが多いです。次に挙げるなら、映画と音楽ですね。ジャンルは特に問いません。

作品のアイデアはいつも、唸って悩んだ末に、ぼっと湧いてきます。湧いてこないまま、尻すぼみに悩み終わることもあります。何も得られないまま悩み終わってしまった後が、一番苦しいです。

創作に詰まったときは、とりあえず美味しいものを食べます。好物の中からそのとき一番食べたいものを選んで、ドカッといただきます。電撃の応募期日直前、焦りに焦っていたときは、安くてガチガチの牛赤身肉を、500グラム、ビタビタのレアに焼いてむさぼっておいしかったです。……あのときは、少しおかしくなっていたのだと思います。

いまのところ、今後については、特に志向しているジャンルはありません。フルプライスでお買い上げいただき、時間をかけて読み通していただくに足る作品を提供できればと考えております。大言壮語になってしまいましたが、志としてはこういう感じでおります、ということ、ひとつご寛恕を賜りたく存じます。

にったしゅうすけ●大阪府出身。おとめ座。好物は、寿司、ステーキ、天ぷら、ルマンド。他の人よりも微かに顔が濃いためなのか、よく海外の旅行者に道案内を頼まれる。

『φの方石』選評の一部をご紹介します！

高畑京一郎(作家)

『方石』の設定がギミックとして面白い上に、よく練られている。主人公が抱えている秘密も面白かった。世界設定がしっかりしているので、宝探的な冒険譚や過去の謎を探るような推理ものなど、いろいろな展開が可能だと思う。

時雨沢恵一(作家)

非常に高い文章力と、着る魔法のような“方石”という架空の存在にリアリティを持たせる丁寧な描写が印象に残った作品でした。途中で明らかになる主人公のかなり意表を突く正体にも、しっかりと驚かせていただきました。

第21回電撃小説大賞《大賞》受賞作

メディアワークス文庫

『φの方石 白幽堂魔石奇譚』

著／新田周右 イラスト／雪広うたこ
2月25日発売

さまざまな服飾品に変じて人々を魅了する立方体、方石。この技術のメッカである神与島で、アトリエ「白幽堂」を営む白堂瑛介は17歳の若き方石職人。下宿人の少女・黒須宮呼と暮らしている。ある日、方石研究者・涼子の依頼で連続方石窃盗事件を追うことになったが――。

